

きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper vol.21 -01 2021 winter

佐世保共済病院110年の歴史を辿る

西暦 元号	当院の概要	世の中の出来事
1912 明治	1911 「佐世保海軍工廠職工共済会病院」の開設 	1904 日露戦争 1914- 第一次世界大戦 1918
1926 大正	1918 「海軍共済組合佐世保病院」と改称 1927 「佐世保海軍共済組合病院」と改称 1932 「佐世保海軍共済病院」と改称	1918 スペイン風邪世界的大流行 1931 満州事変 1941- 太平洋戦争 1945
昭和	1945 佐世保大空襲で病院の一部が焼失 1945 「佐世保共済病院」と改称 1959 第一病棟（現南館）が竣工 	1945 原爆投下（広島・長崎）・終戦 1947 日本国憲法施行 1950- 朝鮮戦争 1953
1989	1972 看護婦宿舍・給食棟が竣工 1983 本館北館が竣工 1991 北館・現南病棟が竣工 	1951 日米安全保障条約調印 1964 東京オリンピック 1965- ベトナム戦争 1975
平成	2009 北館・現北病棟が竣工 	1970 大阪万国博覧会 1972 沖縄返還 1972 札幌冬季オリンピック 1991 湾岸戦争 1991- バブル崩壊 1993
2019 令和	2021 創立百十周年	1995 阪神・淡路大震災 1998 長野冬季オリンピック 2001 米国同時多発テロ 2003 SARS の世界的流行 2009 新型インフルエンザの世界的流行 リーマンショック 2011 東日本大震災 2016 熊本地震 2020- Covid-19パンデミック

INDEX

- 2 ● 新年のごあいさつ 院長 井口 東郎
- 4 ● 診療活動の現況―耳鼻咽喉科―
- 6 ● 病院創立 110 周年を迎えるにあたり
- 7 ● 医療連携室より
 - 令和 2 年度永年勤続者表彰式
 - 編集後記
- 8 ● 外来診療担当表

佐世保共済病院の理念

博愛の精神 人の和 自己研鑽

基本方針

1. 地域のニーズに応え信頼される医療を目指し、地域医療に貢献します。
2. 他の診療機関とともに地域の皆さんの診療と健康増進に努めます。
3. 新しい医学および医療の知識と情報を取り入れ、自己啓発に努めます。
4. それぞれが自己の責任を自覚し、安全な医療を目指します。
5. 病める人の苦しみや喜びを分かち合える心を持ち、患者さん中心の診療に努めます。

新年のごあいさつ

院長 井口 東郎



皆様、あけましておめでとうございます！昨年はコロナ一色で、これまで当たり前だった日常がどこかに雲隠れしてしまいましたが、今年は果たしてどのような展開になるのでしょうか？ワクチンの導入や治療薬の開発が叶い、コロナが淘汰とは申しませんが少なくとも感染がコントロールされコロナと共存する社会に到達できれば？と国民の誰もが願っていることと思います。病院としても、願わくばコロナが収束それが無理としても少なくとも診療機能への影響が軽減し、本来の病に苦しむ患者さんに寄り添ってその生活を支える医療を取り戻したいと切に願っています。また、今年は延期されたオリンピックとパラリンピックが控えており、コロナ次第では開催が危ぶまれる事態も想定されますが、経済的観点ならびに国民に希望を与えろといった観点からは是非とも開催にこぎ着けていただくことを国民の1人として願っています。

さて、私事で恐縮ですが、私が佐世保共済病院に赴任して6年が経ち、この3月で定年を迎えますので、この場を借りて6年間の出来事を振り返ってみたいと思います。先ず挙げられるのは、なんといっても一昨年のシステム障害と昨年の新型コロナ感染です。システム障害の時には、情報システム課が主体となって不眠不休で復旧に当たり、診療への影響を最小限に抑えてくれました。また、コロナに対しては、感染症や呼吸器の専門医が不在の中、ICTを主体としたチームが院内感染防止対策の立案・実行を迅速にすすめ、院内の体制整備にあたってくれました。第1波の時にはウイルスの感染経路、治療法、等々、何の情報もなく手探りで対応

を強いられるとともに著名人の訃報も相次ぎ、職員は不安に苛まれる中で医療人としての責務を黙々と果たしていたのが実情です。第2波以降は院内の診療体制や検査態勢がある程度整備されまた世界的にウイルスに関する情報共有が図られ、もちろん不安が全て払拭されたわけではありませんが、職員も落ち着きを取り戻して日々の業務にあたってくれました。

冬場を迎えコロナ感染が全国的に拡大傾向（第3波）にあり、佐世保市でも12月13日に初めてクラスターが発生いたしました。当院では現時点（2021年1月18日）まで院内感染はみられず、感染防止対策がきちんと機能しています。また、コロナに関する職員への風評被害、等もあり職員の心身疲労が懸念材料でしたが、これについては臨床心理士が適宜対応し、不安の軽減を図っています。この他にもコロナに関してお伝えしたいことが山ほどあるのですが、紙面の都合で詳細は割愛させていただきます。このように全ての職員が一致団結して難局に立ち向かってくれており、システム障害は大事に至ることなく復旧またコロナについても院内感染を起こさず現在も対応中です。

一方、佐世保県北医療圏における共済病院の立ち位置は基幹病院のひとつとして急性期医療を支えねばならないのですが、共済病院では医師数が絶対的に不足しており、診療機能の維持・向上には医師確保が喫緊の課題でした。共済病院は長崎県にありながら九大系の病院として主力は九大から派遣していただいています。近隣大学からも医師の派遣をお願いしています。ところが最近の傾向として医師の都市偏在（九

州では福岡に一極集中)が顕著となり、地方都市における医師確保にしわ寄せが及んでいます。院長の重要な役目に医師確保が挙げられ、九大をはじめ近隣大学には足繁く通いましたが、そこには地方都市の総合病院といったハンディーキャップが立ちはだかっており、大変な苦勞を致しました。結果として常勤医獲得においては己の力が及ばず次期院長に託すこととなり、この点で後ろ髪を引かれる想いではありますが、大学との付き合い方において多くを学ばせていただきました。ただ、消化器内科(内視鏡検査)、呼吸器内科、糖尿病内科、皮膚科、あるいは週末の日当直における診療応援に九大より数多くの非常勤医を派遣していただいております。私としては九大とのパイプは太くしたとの自負があります。こういった地道な努力が将来的な常勤医獲得に繋がることを願っています。この他にも2020年度に10数年ぶりの研修医獲得(初期研修医2名)といった嬉しいニュースを始めとして様々な出来事が胸をよぎりますが、幸いなことにこれまでのところ不祥事、等でマスコミの面前で頭を下げた経験はございません。これもひとえに全職員が支えてくれた賜であり、ここに改めて謝意を表するとともに、3月まで無事に職務を全うできることを願っています。

米国におけるバイデン大統領の登場、米中対立、北朝鮮・イランの核問題、等々で世界情勢が緊迫する中、コロナの収束が未だ見通せないこともあり、令和3年がいったいどういう1年になるのか現時点(2020年12月)ではその展開が予測できない状況で、不安と期待が交錯する年頭所感となりました。ポストコロナの新たな日常はいったいどんな日常になるのでしょうか?ただ、共済病院は佐世保県北医療圏における基幹病院のひとつとしてコロナ対応を含めた地域医療に貢献してゆく姿勢は不変ですので、地域の皆様におかれましては引き続き温かいご支援をお願い致します。また、今年1年が皆様にとりまして明るくかつ素晴らしい一年になりますことを祈念して、年頭の挨拶に替えさせていただきます。

共済病院の将来に向けて一言：

「あいつは6年間で何をした(残した)のだろう?」と訝しがる方もおられるかと存じますが、少なくとも共済病院の将来像を描く、即ち、今後進むべき道筋は描けたと自負しています。県北医療圏における地域医療構想の一環として、効率的な診療を目指した基幹病院間の役割分担が謳われています。こういった見地から、共済病院の将来構想としてこれまでも何度か発信して参りましたが、国民の2人に1人が罹患するがん診療(腫瘍内科、消化器外科)、超高齢化社会で今後も増加する骨折診療(整形外科)、開業医の高齢化で診療機能の低下が危惧される周産期医療(産婦人科、小児科)を診療の3本柱に据え、本医療圏の診療機能を支えてゆく所存であります。

超高齢化社会に突入した日本ではハード面でも患者さんに優しい病院作りが求められています。そういった観点から、今の佐世保共済病院は動線が横に長くしかも高台にありバリアフリー化が進んでいない、まさに高齢者にとって優しくない部分が目立ちます。高齢化社会に適合した病院への改装(新規立て直し)が急務ではありますが、財政的なこともあり、近未来での実現は困難と思われます。ただ、佐世保市民は100年超の歴史を持つ共済病院を温かい眼差しで見守って下さっているので、バリアフリー化した新生佐世保共済病院の早期竣工を次期院長に託して、佐世保を後にします。末筆になりましたが、この6年間私をというより病院を支えていただき、職員の皆様には心より感謝申し上げます。次期院長の下でもこれまで同様、いや、これまで以上に切磋琢磨して、さらなる高みを目指して下さい。そこには必ずや輝かしい未来が開けていることでしょう。





— 耳鼻咽喉科 —

医長 吉田 崇正



● はじめに

耳鼻咽喉科では耳・めまい疾患、鼻疾患、咽喉頭疾患、頭頸部腫瘍、顔面神経麻痺、嚥下障害などの診療を行っています。外来診療は月曜から金曜までの午前中です。火曜・水曜・金曜の午後は手術を、月曜と木曜の午後は各種外来検査を行っています。

● 耳・めまい疾患

急性中耳炎・滲出性中耳炎は小児に多い疾患で、中耳内に膿汁や滲出液が貯留し、熱発・耳痛・難聴を起こします。投薬で改善しない症例に鼓膜切開・鼓膜チューブ挿入術による中耳内の換気改善を積極的に行っています。

慢性中耳炎は、鼓膜に穴があいて難聴や耳漏を生じます。真珠腫性中耳炎は、鼓膜が中耳内に内陥し、周囲の骨組織を破壊しながら進展するため、難聴・耳漏に加えて、めまい、顔面神経麻痺、髄膜炎などを起こす可能性があります。当科ではこれらの疾患に対する鼓室形成術・乳突削開術を行っています。突発性難聴は突然聴力が低下する原因不明の疾患で、早期の治療が勧められます。当科ではステロイドの点滴療法と高気圧酸素療法を併用した治療を行っています。

めまいは、内耳の前庭・半規管というバランスの感覚器の異常によって生じます。詳細な問診と眼振検査・重心動揺計・聴力検査などにより診断します。内耳が原因である良性発作性頭位性めまい症に対しては浮遊耳石置換法、メニエール病や前庭神経炎に対しては薬物療法を行います。症状の強い方には入院加療も行っています。また、難治性めまいや聴力変動を示す症例の一部には外リンパ瘻という病態が隠れていることがあり、当科ではその検査及び手術治療（内耳窓閉鎖術）を行っています。

顔面神経麻痺は近年ウイルスの関与が指摘されて

います。当科では、発症急性期のステロイド治療、抗ウイルス薬投与を行っています。改善が乏しい症例には、画像診断と顔面神経刺激検査を行い、適応があれば手術療法（顔面神経管開放術）を行います。また、言語聴覚士による表情筋リハビリテーション指導も行っています。

● 鼻疾患

アレルギー性鼻炎・肥厚性鼻炎・鼻中隔彎曲症は内服・点鼻等の薬物治療で改善しづらい鼻詰まりや鼻汁症状に対して、鼻腔形態の是正と鼻腔通気改善を目的とした手術治療を行っています。

慢性副鼻腔炎は様々な病態により鼻腔と副鼻腔の交通・通気性が悪化し、副鼻腔内に膿汁貯留や粘膜炎症を来すことにより、鼻漏・後鼻漏、鼻閉、頭痛などの症状を起こします。内服治療で改善が乏しい場合には、副鼻腔を鼻内から開放して症状改善を図る内視鏡手術を行っています。当院では高画質の内視鏡設備に加えて、近年導入されたナビゲーションシステムの補助下に、より安全な手術を心がけています。

● 口腔・咽頭・喉頭疾患

急性扁桃炎や咽喉頭炎の症状が強い方には入院・抗菌薬投与を行っています。扁桃周囲膿瘍の方には切開排膿を行うことがあります。扁桃炎を繰り返す方には口蓋扁桃摘出術をお勧めしています。また、唾石、口唇嚢胞、舌腫瘍に対しては摘出手術を行っています。

声帯ポリープや喉頭腫瘍などに対しては、顕微鏡下の喉頭微細手術を行っており、必要に応じてCO2レーザーを併用しています。

●頭頸部腫瘍

頸部腫瘍に対しては超音波検査、CT、MRI 検査、細胞組織学的検査を行います。良性の甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍などに対して外科的摘出手術を行っています。頸部嚢胞性疾患には摘出術のほかに薬物注入による硬化療法も行っています。

進行頭頸部癌（口腔癌・咽喉頭癌・甲状腺癌など）に対しては手術・放射線治療・化学療法による集学的治療が必要となる場合があります。手術は九州大学病院の耳鼻咽喉・頭頸部外科に手術応援を、放射線治療については佐世保市総合医療センターの放射線科に協力をお願いしています。根治切除困難例や再発例に対しては、当院の腫瘍内科と連携して分子標的薬を含む化学療法を行っています。



ナビゲーション補助下の鼻内視鏡手術を行う緒方医師

●嚥下障害

高齢化に伴い嚥下障害の方は増加しています。飲み込みにくい、むせやすい、肺炎を繰り返す、等の症状がある方には、原因検索を行うとともに、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を行い、言語聴覚士とともに食事形態の工夫や嚥下訓練の指導を行っています。

●終わりに

当科外来は医師 2 名、看護師・看護助手等 5 名で診療に当たっています。入院・手術が必要な方・診断のための精査を要する方を中心に診療を行っています。

ますので、状態が安定している方は地域の諸先生方にご紹介させて頂くことがありますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

令和元年度症例

(手術あり)	
慢性中耳炎・珠腫性中耳炎（鼓室形成術）	54
滲出性中耳炎（鼓膜チューブ挿入術）	29
先天性耳瘻孔	6
慢性副鼻腔炎（内視鏡下鼻・副鼻腔手術）	90
鼻中隔彎曲症	26
慢性扁桃炎・睡眠時無呼吸症候群（口蓋扁桃摘出術）	50
アデノイド切除	13
声帯ポリープ・喉頭腫瘍（喉頭微細手術）	9
甲状腺腫瘍（良性・悪性）	30
耳下腺腫瘍	11
顎下腺腫瘍・唾石症	6
(手術なし)	
突発性難聴	76
めまい症	31
顔面神経麻痺	38
鼻出血症	13
急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍	54



耳鼻咽喉科外来スタッフ

病院創立110周年を 迎えるにあたり

スペイン風邪が猛威を奮ったのは1918年から1920年にかけて、世界全人口の3分の1、約5億人が感染、日本でも約2,380万の国民が感染し、約39万人の死亡者があったとされています。今から100年前の出来事です。当院はその約10年前の1911年(明治44年)1月に「佐世保海軍工廠職工共済会病院」として開設され、まもなく病院創立110周年を迎えます。



空襲時に手術が行われた防空壕跡
(宿舎造成工事の際、姿を現した)



空襲後 焼け残った当院

開院当時の写真を見ると、110年間に渡り佐世保川沿いのこの地で医療の提供を継続できたことは、地域の皆様のご理解と先輩諸氏の努力によるものと実感いたします。

長い歴史には幾多の困難があったと推測します。特に1945年6月(昭和20年)の佐世保大空襲による罹災を免れ、空襲時にも防空壕で手術が行われたことが創立100周年の記念事業で発刊した

「佐世保共済病院100年史」に記されています。

さて、2020年は新型コロナウイルス感染症に始まり4月に緊急事態宣言、5月に宣言は解除となりましたが、収束することなく年は遷ろうとしています。コロナ禍の現在においては世の中の多くの事業・イベントが中止や延期となり、前例がない異例の状況がしばらくは続くものと思われます。当院においても多くの物事を犠牲にし、病院全体で感染対策に注力しているところです。

現代を生きる私達はこの難局を克服し「佐世保共済病院」の歴史を引継ぐと共に、今後もこの地で使命感を持って医療を提供し、未来を築きたいと思います。

事務部次長 松本 洋行



開院当時



昭和25年頃



昭和58年頃



現在の全景



医療法人たかひら外科

〒858-0923 佐世保市日野町1901-4 TEL0956-28-6388

院長 高平 良二 先生

日野町で外科医院を開業している高平と申します。平成10年に元整形外科医院を継承しての開業で22年目になります。長崎市出身で、長崎西高から長崎大学医学部に進み、卒業後は第一外科に入局、一時病理にも行った後、外科に戻っています。佐世保では、佐世保中央病院や

福田外科病院にお世話になり、佐世保での開業となりました。外科は何でも屋さんのところもあり、それなりに地域医療に携わっているつもりです。ただ整形外科の継承だったため整形疾患の患者さんが多く、専門外でわからないこともあります。また精査や手術が必要と思うとき



スタッフのみなさん

(前列中央 院長 高平良二 先生)

などは共済病院にもよく紹介させていただいています。いつもお引き受けいただき感謝しておりますし、ご返事で勉強させてもらっています。これからも共済病院にはお世話になることも多いと思いますが、引き続きよろしく願い申し上げます。

令和2年度永年勤続者表彰式

当院からは10名の職員が表彰

総務課 池田 智紀

令和2年10月21日(水)当院8階講堂において、令和2年度永年勤続者表彰式が開催されました。国家公務員共済組合連合会職員として勤続25年を迎えた職員が表彰されるこの式典は、例年全国の表彰対象職員を一同にKKRホテル東京へ招待し、理事長を始め本部役員が出席する中で開催されています。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、東京・神奈川・各施設における分散開催となりました。

今年度の表彰対象職員は全国で計187名、当院からは10名の職員が表彰を受けました。当日は連合会本部より大木宰子常務理事が来院され、理事長に代わり式辞を述べられ、その後受表彰者を代表し光武純子4階南病棟師長が謝辞を述べました。

前例のない各施設での分散開催でしたが、会場となった当院講堂でも窓や扉を開けた状態で式を執り行い、出席者同士の配置も十分な距離を取るなどの感染対策を行

いました。

今年は当院でも様々な行事の中止を余儀なくされています。このように功労者に対し感謝する式典が通常通り開催できるよう、一刻も早い新型コロナウイルスの収束を願うばかりです。



編集後記

昨年の今頃、『2020年東京オリンピック・パラリンピックの年です。…』と編集後記に書いたのを思い出します。世界中の人が思いもなかった新型コロナウイルス感染拡大、新しい生活スタイル、2021年はどんな年になるのか不安でいっぱいですが、医療機関で働く一人として、改めて健康に留意していこうと思う次第です。

編集委員 栄喜 貴穂

外来診療担当表

令和3年1月1日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考（専門分野・特徴など）
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
腎臓内科	部 長	福成 健一	●					●					腎臓疾患・人工腎臓
	医 長	金谷 晶子			●		●						腎臓疾患
	医 員	山崎 政虎					●				●		腎臓疾患
	〃	末永 敦彦	●					●					腎臓疾患
循環器内科	部 長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患
	医 員	川崎 修平	●					●					循環器疾患
	非常勤	田渕くみ子									●		循環器疾患
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患
	〃	熊埜御堂淳									●		循環器疾患
	〃	津留 智子	●		●								循環器疾患
呼吸器内科	非常勤	堤 央乃					●						呼吸器疾患
	〃	安藤 裕之									●		呼吸器疾患
糖尿病内科	非常勤	梶谷 祐介						※	※				※第1・3・5週
	〃	竹野 歩						※	※				※第2・4週
消化器内科	部 長	河野 健次			※				●				肝臓疾患、糖尿病 ※第1・3・5週
	非常勤	藤松 雅彦							■				消化器内科
	〃	萩原 久美				※							消化器内科 ※第1・3・5週
腫瘍内科	院 長	井口 東郎					●						膵がん・胆道がん
	医 長	二尾 健太	●				●		■		●		1. 消化器がん（食道がん・胃がん・大腸がん・膵がん・胆道がん・肝細胞がんなど）2. 乳がん、3. 原発不明癌、4. 肉腫（GIST・軟部肉腫）・その他
	医 員	今嶋 堯志	■		●				●				
外 科	副院長	井原 司					●		●				消化器外科・肝胆脾外科・内視鏡下外科・一般外科
	乳腺外科部長	原田 洋					●				●		乳腺外科・一般外科
	消化器外科部長	富崎 真一	●	●		●							消化器外科・内視鏡下外科・一般外科
	肝胆脾外科部長	丸山祐一郎	●						●		●		消化器外科・肝胆脾外科・一般外科
	医 員	内野 馨博		●							●		消化器外科・肝胆脾外科・一般外科
	〃	橋本 和晃					●		●				一般外科
	非常勤	川畑 方博					●						肝胆脾外科・消化器外科・一般外科
	乳腺外来		■ 内野		■ 橋本		■ 原田				■ 原田		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい（要予約）
小 児 科	部 長	上玉利 彰	●		●				●				小児血液、小児がん、小児一般
	アレルギーセンター長	合田 裕治	■		■		■		■	▲	■		小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息
	医 長	金城 勤也			●		●		※		●		小児一般 ※第3週を除く
	顧 問	岡 尚記	●				●	▲		▲	●		小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般
	アレルギーセンター顧問	濱崎 雄平							★	★			小児アレルギー疾患（★第3週）
	乳 児 健 診					●							火曜 13時から診察開始 14時までに受付を行って下さい
	慢 性 外 来							●					水曜 14時から診察開始
脳神経外科	部 長	山川 勇造		●				●	●	●		●	脳神経外科一般
	応 援 医 師				●								13時30分から診療開始 16時までに受付を行って下さい
整形外科	部 長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科（肩肘手）、足部外科、スポーツ障害
	医 長	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科（肩肘手）、スポーツ障害
	〃	上田 幸輝	●				●				●		膝・肩関節疾患、腫瘍
	〃	伊東 孝浩	●				●		●				膝・股関節疾患
	〃	千住 隆博	●		●				●				股関節疾患、上肢の外科（肩肘手）
	医 員	田代 英慈	●						●				整形外科一般
	〃	柳田 隆宏			●						●		整形外科一般
	〃	鈴木真由佳					●						整形外科一般
泌尿器科	部 長	中村 貴生	▲		■		■		■				泌尿器疾患 ▲月1回奇数週（第1又は第3週）
	医 員	湯野 努	▲		■				■		■		▲第2、第4週
	〃	左川 遼	■				■				■		
産婦人科	部 長	鶴地 伸宏	●		▲		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	〃	木下秀一郎			●		●		▲		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患
	医 長	二尾 愛	▲		●				●		●		●：婦人科診察日 ▲：産科診察日
	医 員	伊奥田 彩	●		●		▲				●		
	〃	野田龍之介	●				●		●		▲		
眼 科	医 員	松本 拓	■		■	※	■	※	■		■	※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術
	※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来（要連絡）												
耳鼻咽喉科	医 長	吉田 崇正	●		●		●		●		●		鼻科・耳科疾患、聴覚疾患、耳鼻咽喉科一般
	医 員	緒方 政彦	●		●		●		●		●		
放射線科	部 長	川原 康弘	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。										MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	放射線検査科部長	野々下政昭											
麻 酔 科	診療部長	深野 拓			■		■		■		■		月～金午前：ペイン・緩和ケア・術前外来
	医 長	松永 祥志	■		■		■		■		■		月～金午後：手術麻酔
	〃	木本 文子	■		■		■		■		■		
	非常勤	別府 幸岐	■		■						■		
ペインクリニック	部 長	境 徹也	■		■		■		■		■		月～金午後は手術麻酔 受診等のお問合せは、直接外来までお電話下さい。
病理診断科	顧 問	井関 充及											細胞診断・病理組織診断全般
歯科口腔外科	部 長	窪田 泰孝	●	●	●	●	●	■	●	●	●	●	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、口腔腫瘍、顎関節症
	医 員	今利 一寿	●	●	●	●	●	■	●	●	●	●	歯性感染症など
	〃	濱田 雄太	●	●	●	●	●	■	●	●	●	●	
健診センター	健診センター長	佐藤 浩信	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155										
	医 員	原 敬一											

●：診療日 ■：予約のみ 赤字：前回との変更点